

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
おやこ支援室ゆずりは		R8 年 3 月 31 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	利用定員10名に対し、支援者5~7名を配置している。	正規職員の休憩時間の兼ね合いがあり、一時的に支援者が少なくなってしまう時間があるが、安心安全に過ごしていただけるような人員配置にできるように心がけている。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	部屋の中は段差がなく、バリアフリー化。部屋をコーナーで分けることでエリアを把握しやすくしている。	視覚支援が不十分。誰もが見て分かる環境にしていく必要がある。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5			
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	タイムリーに情報共有ができるように電子記録を用いている。また、職員の勤務時間内に、より良い支援ができるように話し合いの場を設定している。	勤務時間の違い等から全職員が揃って話し合う機会が少ないのも現状。話合ったこと等を全職員で共有出来るようにICTを活用していく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2		現在、外部評価は行っていないが必要に応じて依頼をしている。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4	1	日々の様子や保護者からの話をもとに課題やニーズを分析し、個別支援計画書に反映させている。	アセスメントツールが活用出来ていないため、必要に応じてアセスメントツールを使用しながら計画書の作成を行っていく。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1	児発管だけでなく、他のスタッフの意見も取り入れた上で多角的なものになるよう心掛けている。	計画的に計画書の内容を職員全員で定期的に見直し、支援に反映させることを再度徹底していく。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	2	基本的には計画書に沿った支援を行っているが、日々変化する子どもたちに合わせ、支援内容も変化をさせるようにしている。	計画的に計画書の内容を職員全員で定期的に見直し、支援に反映させることを再度徹底していく。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	3	日々の行動観察は全職員で行うようにし、都度 共有をしている。	お子様の疾患・特性によって発達が様々であり、明確化されたツールの活用が少ない。今後、簡易的に標準化されたシステム作りが必要。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	保育士が中心となり、プログラムを立案しており、プログラム内容には機能訓練士の意見も反映するようにしている。	今後は機能訓練士も立案に参加しながら総合的なプログラムを計画していく。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	発達段階を踏まえ、色々なことを体験して頂けるようなプログラムを策定するように心掛けている。	室内で行う活動では、プログラムの内容が固定化しやすい傾向にあるので、様々な意見を取り入れながら立案していく。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	気になることがあれば都度声掛けを行い、次に活かしていくようにしている。	勤務時間の違い等から全職員が揃って話し合う機会が少ないも現状。振り返りや気付いた点については都度、話を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	登園日には活動報告・個別訓練内容を連絡帳にて記録している。	記録するだけではなく、検証・改善に繋げることが出来るようにしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	1	定期的な見直しは行っているが、児発管のみでの見直しになっている。	定期的にモニタリングを行っているが、児発管だけではなく職員全員内容を共有し、見直しの必要性や今後の計画内容について話し合いを行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	引継ぎシートの作成や情報提供書の記入を行い、情報共有を行っている。	書類だけのやりとりではなく、直接的なやりとりを行うようにし、密な連携を図っていくようにする。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3		必要に応じて連携を行っているが積極的な連携は図れていない。今後は今以上に連携を行っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	系列施設である、ゆずりは保育園との交流は毎月設けており、様々な活動を楽しんでいる。	地域の保育園・幼稚園との交流は行えていない。近隣の保育園・幼稚園との交流機会を検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	毎月開催している保護者会の中で、保護者向けの講習会等を実施している。	もっとたくさんの保護者の方に参加してもらるように、講習会の内容も検討が必要。	
保護者へ	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5			

の 説 明 等	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	1	SNSや連絡帳アプリにおける写真の取扱いについて十分注意している。書類等は鍵付き書庫にて保管している。	SNS投稿は十分注意を行っているが、小さく写り込んでしまう可能性もあるため、ダブルチェックを徹底する。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を回っているか。	2	3	以前、地域向けのイベントを実施し、地域の方との交流を楽しむことが出来た。また、お盆には阿波踊りに参加し、事業所以外の方と交流することも出来た。	招待することは出来ていないため、より積極的に地域交流を行えるような工夫を行う。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	安全計画を作成し、訓練や研修を行っている。また、安全管理には十分に注意をはらっている。	取り組み内容について、十分な説明は出来ない可能性があるため、今後は周知の徹底と目的についても共有を行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	その都度職員間での共有を行い、対応策を話し合い実践している。	休みの職員にも共有できるようにICTを活用する等の工夫を行う。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5				